

# ANNUAL



# UAL REVIEW



## 2021年度 年次報告書

2021年1月1日~12月31日

一般社団法人  
バードライフ・インターナショナル東京



# CONTENTS

<b>代表のメッセージ</b> .....	2
<b>2021年の活動ハイライト</b> .....	2
<b>環境保全活動</b>	
絶滅危惧種の保護 .....	3
森林と湿地の保全 .....	5
渡り鳥の保護 .....	7
海鳥・海洋の保全 .....	8
生活向上への取組 .....	9
プラスチック循環型社会への取組 .....	10
<b>チャリティーイベントの開催</b> .....	11
<b>絶滅危惧種調査・研究</b> .....	12
<b>広がる支援の輪</b> .....	13
<b>収支報告</b> .....	14

# 代表のメッセージ

バードライフ・インターナショナル東京（以下、バードライフ東京）は2002年4月に発足し、以後19年間着実に環境保全活動を進めてきました。発足当初は渡り鳥の保護など限られた活動でしたが、森林や海洋の保全、地域の人々の暮らしの改善、環境教育、地球温暖化の防止と多様化し、世界に活動地域を広げています。

昨年につき2021年も新型コロナウイルスの影響には大きなものがありました。いくつかの助成事業が見送られた他、チャリティー晩餐会のうちの一つは、オンラインでの開催となりました。一方でSDGsを重視する企業等からの新規のご支援も実現しました。環境問題は深刻さを増しています。私たち、バードライフ東京は、今できること、求められることを模索しながら活動を続けてまいります。



2022年1月  
バードライフ・インターナショナル東京  
代表

鈴江 恵子

## 2021年の活動ハイライト

バードライフ東京では、環境保全活動の推進を軸に企業やバードライフ・パートナー団体との協働を進めることで、2021年は15カ国において環境保全活動を展開することができました。



# 絶滅危惧種の保護



## 鳥類の約13%が絶滅の危機に瀕しています

### 環境配慮型の稲作とオオヅルの保護 —カンボジア

**絶** 滅危惧種のオオヅルが飛来するカンボジア南部で、ツル米を生産し、農家の生計向上とツルへの理解を通じて安定した生息環境を維持する活動をパートナー団体と協働で開始しました。

バードライフ東京では、経団連自然保護基金の支援を受け、NatureLife Cambodia(カンボジアのパートナー団体)と協働で、環境配慮型のツル米の生産とオオヅルの保護活動を始めました。初年度となる2021年は、事業の事前評価\*を実施するとともに、生産基準を策定し、現地農家への技術支援を進めながらツル米の生産を開始しました。6月にはカンボジアの環境大臣を訪問し、事業推進への理解を求めました。また、オオヅルの調査も並行して実施していきます。





© Association Armonia

畜産農家を対象に普及啓発イベントを開催

## アオキコンゴウインコの保護ーボリビア

**ボ**リビアの固有種であるアオキコンゴウインコは世界でわずか300羽しか生息していません。ボリビア北部のサバンナ低湿地において、アオキコンゴウインコの保護活動を実施しました。

トヨタ環境活動助成プログラムの支援を受け、アルモニア協会（ボリビアのパートナー団体）と協働で2019年から保護活動を実施しています。アオキコンゴウインコのねぐらや営巣場所になっている樹林地は、家畜にとっても重要な休息場所になっており、その保全を進める上で畜産業との共生が必要不可欠です。2021年には、畜産農家を対象とした普及啓発イベントを行い、鳥類と畜産業の共生に向けた活動を進めました。

## コサンケイの保護ーベトナム

**2**018年より3年間、経団連自然保護基金の支援を受け、Viet Nature（ベトナムのパートナー団体）と協働で、野生での絶滅が危惧されるキジ科のコサンケイの保護増殖活動を支援しました。

コサンケイの近似種であるセキショクヤケイ2ペアの飼育を行い、8羽のヒナが順調に育っています。また、3年間の成果として、コサンケイの野生復帰予定地の生物調査が挙げられます。国内外の研究者や動物園関係者とのネットワークが構築され、今後の保護戦略を策定することができ、長期的な保護増殖活動の基礎を築くことができました。

Edwards's Pheasant



© Viet Nature

順調に成長するヒナ

## PRISMによる事前評価、事業評価を行っています

環境保全活動を継続するには、実施した環境保全活動の成果や有効性を評価することが重要です。バードライフ・インターナショナル（以下、バードライフ）は、環境保全活動を評価するためにPRISMツールキット\*を2017年に開発しました。活動の前後で調査を実施し比較検討を行います。この評価データをもとに、今後のよりよい活動計画を立案することができます。SDGsの達成に関心が高まる中、環境保全活動の見える化に貢献していきます。

\*PRISMツールキット (Practical methods for evaluating the outcomes & Impacts of Small-Medium sized conservation projects)

# 森林と湿地の保全



年間約10万平方キロメートルの森林が失われています\*

## テクノロジーを活用した森林保全 —インドネシア

**イ**ンドネシア・スマトラ島の熱帯雨林「ハラバンの森」で、テクノロジーを用いた効率的な森林保全活動を実施しています。

同地域では、パームオイル生産のための農園開発により、大規模な森林破壊が進んでいます。バードライフ東京は、ブルーン・インドネシア（インドネシアのパートナー団体）と協働で、約10万haの森林を守る「ハラバンの森」プロジェクトを立ち上げています。2021年は富士通株式会社の支援を受け、ICT技術を用いた持続可能な森林保全促進のため、現地スタッフの地理情報システム（GIS）の知識や技術向上のためのオンライン研修、ドローンの運用や管理技術向上のための講習会の開催、先住民へのサイバートラッカー研修を実施しました。これにより、更に効率的な保全活動が可能になります。

## 森林資源を活用した地球温暖化の緩和 —インドネシア

**違**法な伐採や焼き払いによって森林が失われているインドネシア・スマトラ島の「ハラバンの森」において、アグロフォレストリーを行い、現地住民の生計向上と森林保全に寄与する活動を実施しています。

バードライフ東京は、トヨタ環境活動助成プログラムの支援を受け、ブルーン・インドネシアと協働で、植林とともに天然ゴムの栽培とハチミツの生産を行い、地域住民の生計を向上させ、ハラバンの森を保全する活動を実施しています。2021年は、天然ゴムとハチミツの農家と売買契約を結び、天然ゴムの栽培適地の調査や栽培計画の策定、ミツバチの営巣木の記録とタグ付けなどを実施しました。

## 湿地に生息する水鳥の保護—ベトナム

**東** 南アジアの湿地は渡り性水鳥の重要な生息地になっているものの、適切な保全・管理がなされておらず、減少・劣化しています。ラムサール条約等への登録を進めるなど、保全の体制を構築することが重要です。

環境省からの請負のもと、Viet Natureと協働し、ベトナム北部沿岸域の湿地保全の拠点として、Xuan Thuy国立公園で渡り性水鳥の保護活動を行いました。2021年1月に水鳥のモニタリング調査を行い、絶滅危惧種を含む多くの水鳥を記録することができました。また、水鳥のモニタリングを行う能力の向上を目的に、国立公園スタッフを対象とした現地研修を実施しました。



©Viet Nature

調査時に観察されたクロツラヘラサギ

## Beekeeping

## マングローブの復元と利用—メキシコ

**生** 物多様性だけではなく地域住民の生活にとっても重要なマングローブを守るため、マングローブの植林と持続可能な利用を推進する活動を実施しました。

マングローブは世界で最も速い速度で消失・劣化が進んでいる生態系の一つです。2015年から2021年まで株式会社リコー（以下、リコー）の支援を受け、プロナチュラ（メキシコのパートナー団体）と協働で、マングローブの植林・保全活動を行いました。2021年は主に養蜂を行い、マングローブ林の持続可能な利用を推進しました。



©ProNature

地域住民による養蜂

## Nursing Trees

## アフリカでの植林活動—ブルキナファソ

**森** 林劣化と砂漠化が深刻な問題となっている西アフリカ・ブルキナファソ北部において、10年間にわたって、地域住民と協働で植林活動や普及啓発に関する活動を行いました。

ブルキナファソ北部のウルシ湖周辺は、世界で最も急速に砂漠化が進んでいる地域です。森林の復元を目指して、2011年度から2020年度までリコーの支援を得て、ナチュラマ（ブルキナファソのパートナー団体）と協働で植林活動を実施してきました。10年間で9万3千本以上の植林に加え、生態系についての普及啓発活動も行ってきました。植林や適切な管理を行うことで、活動地域では森林植生が回復しつつあります。



©NATURAMA

植林のための苗木の管理

# 渡り鳥の保護

渡りのルートにある  
生息地を守ります



© 長谷部真

## 渡り性水鳥とその生息地の保護 —日本

**渡**り性水鳥の重要生息地ネットワークの保全と適正な管理を進めるため、専門家や自治体及び地域のNGOと協力した取組を進めています。

渡り鳥を守るためには、繁殖場所、渡りの途中の休息場所、越冬場所を、渡り経路全体で守る必要があります。日本も参加している東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ(EAAFP)のもと、渡り性水鳥やその生息地の保全・管理が進められています。2021年は環境省からの請負業務として、重要生息地ネットワークを活用した水鳥の渡りの動向把握及びモニタリングの体制強化をテーマに、モニタリング検討準備会を開催しました。

## 北海道のフライウェイ・サイトの活動支援 —日本

**北**海道に飛来する渡り性水鳥と生息地保全のため、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ参加地の活動を支援しています。

北海道には、渡り性水鳥の越冬地、中継地、繁殖地として重要なフライウェイ・サイトが9つあります。2021年はパシフィック・センチュリー・プレミアム・ディベロップメントの支援を受け、野付半島・野付湾の重要性を紹介するガイドブックの作成、宮島沼におけるガン類の渡り追跡調査、今年国内34カ所目の東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・ネットワークに参加登録されたサロベツ湿原における渡り性水鳥の調査環境整備とごみ分類調査の支援を実施しました。



# 海鳥・海洋の保全



海鳥と漁業の共存に向けた  
保全活動に取り組んでいます

# Conservation



© Stephanie Prince

## 遠洋マグロはえ縄漁における海鳥混獲の削減 —日本

**は** え縄漁による海鳥混獲の削減に向け、サプライチェーンへの働きかけや一般市民向けの普及啓発活動を行いました。マグロはえ縄漁を管理する国際会合と持続可能な漁業に関する話し合いにも参加しました。

海鳥が直面する深刻な問題の一つが混獲（偶発的に漁具にかかること）です。マグロはえ縄漁では、絶滅危惧種を含む多くのアホウドリ類などが命を落としています。2021年は、デビッド&ルシル・パッカード財団の支援のもと、サプライチェーン向けウェビナーを開催しました。また、サウスジョージア・ヘリテイジトラスト、サウスジョージア・アソシエーションの支援を受け、SNS「南半球アホウドリ物語」を通じた普及啓発も行いました。

## 海鳥と刺し網漁の共存を目指す取組 —日本

**北** 北海道北西部における刺し網漁による海鳥混獲の現状把握に向けて、漁業者や研究者らと共同で洋上データを収集しました。研究者及び葛西臨海水族園と共同で、混獲回避策の実験も行いました。

刺し網漁の混獲により、世界中で毎年推定40万羽の海鳥が犠牲になっています。2021年は、東京動物園協会、キングフィッシャー財団、デビッド&ルシル・パッカード財団の支援のもと、北海道羽幌町周辺の漁業者、北海道海鳥センター、研究者と共同で、混獲の現状把握のため洋上データ収集を始めました。また、日本動物園水族館協会の支援を受け、潜水性海鳥を飼育している葛西臨海水族園において、混獲回避策の検証実験を行いました。

# 生活向上への取組

人を育て、暮らしを支えて  
環境を守っています



© Burung\_Indonesia

## 持続可能な森林資源管理と生計向上支援 —インドネシア

**イ**ンドネシア・スラウェシ島ゴロンタロ州の6村で、持続可能な森林資源管理や生計向上のための知識や技術を普及させる活動を実施しています。

同地域では、農地拡大のための森林伐採や持続不可能な森林資源利用や農業が行われています。本プロジェクトは、JICA（国際協力機構）草の根技術協力の採択され、2021年11月より開始しました。バードライフ東京は、ブルーン・インドネシアと協働で、「森林周辺地域在住農家の所得安定化に必要な技術の普及促進」プロジェクトを実施しています。2021年は、ベースライン調査を実施し、プロジェクト実施前の対象農家や指導員の知識や技術、生活などを把握しています。ウェブページ (<https://tokyo.birdlife.org/kusanone>) で、活動を詳しく紹介しています。

# プラスチック循環型社会への取組

17



## 環境保全活動を通して社会課題の解決を図っています

### 地域参加型リサイクルプログラム—日本

**地** 域の清掃活動で回収した廃プラスチックを  
リサイクルしたごみ袋が完成しました。

ダウ・ケミカル日本株式会社とテラサイクルジャパン合同会社の支援を受けて2020年から開始したこのプログラムは、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、予定した清掃活動を実施できなかったものの、鳥をマスコットとするJリーグクラブから構成される「Jリーグ鳥の会」の協力を得て、プラスチックごみを回収し、リサイクルごみ袋を製作することができました。完成したリサイクルごみ袋は、清掃活動の参加団体へ配布され、11月には「Jリーグ鳥の会」のギラン会鳥（ギラヴァンツ北九州）から、清掃活動に参加した福岡県北九州市立曾根東小学校の児童に手渡されました。リサイクルごみ袋は今後の地域の清掃活動などに活用される予定です。



©GIRAVANZ

ペットボトルをリサイクルしたごみ袋を贈呈するギラン会鳥

# チャリティーイベントの開催

環境への理解を深めながら、  
環境保全に貢献する機会を提供しています



バードライフ東京は自然保護活動支援のため、毎年二回、東京と大阪でガラ・ディナーを主催しています。また、インターネット・オークションを開催するなど、イベントの多角化を図っています。

2021年も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、3月に予定した大阪スプリング・ガラは二度の延期の後、中止となりました。その代わりに新たな試みとして開催したオンラインイベント「おうちでガラ」では400万円を集めました。東京ガラ・ディナーは、参加者を限定し、長めのエンターテインメントをお楽しみいただきながら、黙食をお願いするなど、感染防止策をとった上で開催し、2,800万円の収益金を集めることができました。また昨年にも続き開催したインターネット・オークションでは400万円の収益を上げました。収益金は、BirdLife International Japan Fund for Science基金、レッドリスト支援などに活用させていただきました。

©keyshots.com

Internet Auction



インターネット・オークション

Gala Dinner



お言葉を述べられる名誉総裁 高円宮妃久子殿下

# BirdLife International Japan Fund for Science 基金

バードライフの科学に基づいた  
調査・研究を支援していきます



**B**irdLife International Japan Fund for Science 基金は、高円宮妃久子殿下の名誉総裁ご就任15周年を記念し2019年に設立されました。

この基金によって、バードライフが世界中で行う鳥類の保護や自然環境保護の基礎となる調査研究活動が支えられています。これらの研究は、バードライフだけでなく、様々な国際機関や政府にも基礎データとして提供され、IUCN（国際自然保護連合）レッドリストとして自然保護に役立てられます。

チャリティーイベントでの収益金の一部を充当する他、個人や団体、ショパールジャパン株式会社など企業からのご寄付による五年間の基金作りを進めています。

Red Data Book



世界の絶滅危惧種を解説したRed Data Book

# Major Supporters

## 広がる支援の輪

理念や活動に共感する多くの方々から  
ご支援をいただきました



### 株式会社アルテ サロン ホールディングス

海外を含め300店舗以上の美容室を展開する株式会社アルテ サロン ホールディングスより、一年間のカラー施術の件数に応じたご寄付をいただき、10月に寄付金贈呈式を執り行いました。同社からは、美容業界が使用する染料などに含まれる化学物質が水質汚染の原因となることから、バードライフ東京の水辺の鳥をはじめとする環境保護活動に共感いただき、今後も継続的な支援をいただく予定です。



### 株式会社フェリシモ

自社企画商品を中心に、ファッションや生活雑貨など幅広い商品を生活者に販売する株式会社フェリシモとのコラボレーションマスクを販売しました。鳥たちがデザインされたマスクの販売価格のうち100円を、野鳥基金としてバードライフ東京の環境保全活動に拠出いただきました。



### 株式会社伊東屋

オリジナル文房具も多く手掛ける老舗文房具店である株式会社伊東屋が、ROMEO No.3 ボールペン高蒔絵「日本の稀鳥」を発売しました。ROMEO No.3 ボールペンに、絶滅を危惧されている鳥たちの姿が蒔絵で描かれています。鳥や自然を守りたいという想いを込めて作られた同商品の売り上げの一部を、自然保護、鳥類の保護活動のために寄付いただきました。

### ソリマチグループ

1955年の創業以来、60年以上にわたって日本の会計をあらゆる形で支援してきたソリマチグループより、昨年に引き続き社内の募金活動によるご寄付をいただきました。同グループのイメージキャラクターのペンギンをはじめとするバードライフ東京の環境保護活動のため、今後も継続的に寄付活動を続けていただく予定です。

### Yahoo!ネット募金

Yahoo!ネット募金にて、バードライフ東京の運営を支援するためのサイトやプロジェクト別のサイトを用意し、支援を呼び掛けています。プロジェクトを通じて、ヘラシギやオオヅル、ケープペンギン、ブラジルの野生の鳥たちやインドネシアの森を守ることができます。継続したご支援もいただいています。

## 法人賛助会員・個人会員

バードライフ東京には、企業や団体による法人賛助会員制度や、個人で活動を支援していただく制度があります。その他にも、絶滅危惧種の保護活動に里親として関わっていただくレア・バード・クラブ会員制度があります(50音順・敬称略)。

### 法人賛助会員

- ・IMHホールディングス株式会社
- ・株式会社アルテ サロン ホールディングス
- ・アルファー食品株式会社
- ・出雲大社
- ・出雲大社文化事業団
- ・高麗若光の会
- ・伏見稲荷大社
- ・高麗神社
- ・北海道神宮
- ・寒川神社
- ・真清田神社

### 個人会員 (Friends of BirdLife)

個人会員制度では一口5,000円(一年間)の寄付を募っています。個人会員の方からのご支援はプロジェクト活動費や団体の運営のために活用させていただきます。振込の他、カード決済による会員の自動継続が可能です。

### その他のご支援

- ・azbilみつばち倶楽部
- ・株式会社ナミコス
- ・小駒 洋子様
- ・BLS(バードライフ・サポーターズ・クラブ)
- ・海外酒販株式会社
- ・株式会社ワンステップ
- ・スフェラーパワー株式会社
- ・大本山総持寺

# 収支報告

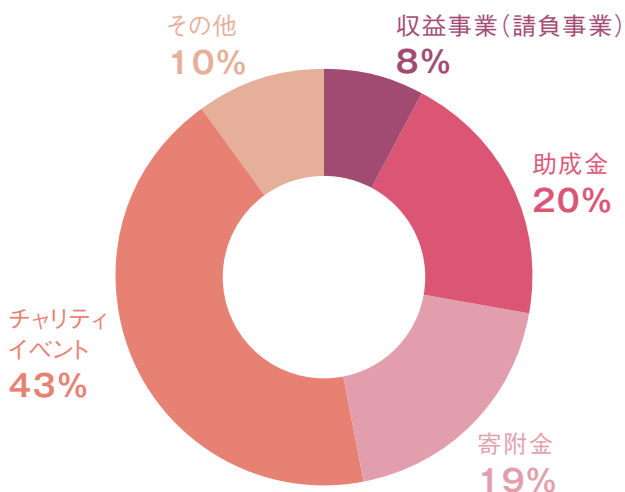
2021年の収支報告は以下の通りです。

※2021年12月末日現在の見込(会計監査前)

## Income

収入

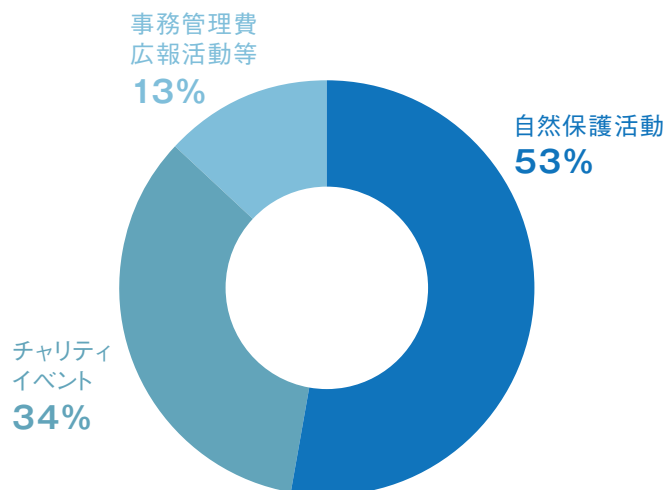
166,636,125円



## Expenditure

支出

166,636,125円



# Together we are BirdLife International Partnership for nature and people



一般社団法人

バードライフ・インターナショナル東京

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-13-1 ユニゾ蛸殻町北島ビル1階

TEL: 03-6206-2941 FAX: 03-6206-2942

<https://tokyo.birdlife.org>